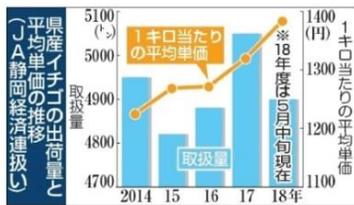


18年県産 単価最高

2018年シーズンの県内産イチゴの生産がおおむね終了した。JA静岡経済連がまとめた販売実績(5月中旬現在)によると、1キロ当たりの平均単価は前年同期比45円高の1378円と、記録が残る1975年以降で最高となった。夏場の記録的な暑さや台風被害など天候に翻弄(ほんろう)されたが、「紅ほっぺ」「きらび香」の二枚看板はいずれも好調に推移し、消費者の評価も高まっている。



JA静岡市の品評会。2018年産は平均単価が高値で推移した＝1月中旬、静岡市駿河区



経済連によると、全国的な作付面積の減少で市場に出回るイチゴが減少傾向。消費地である首都圏でのPR強化による押し上げにつながった。みられる。品種別では、ブランド力向上も単価の主力「紅ほっぺ」の平均単価が45円高の1378円、1割強を占める「きらび香」の二枚看板はいずれも好調に推移し、消費者の評価も高まっている。

「紅ほっぺ」「きらび香」好調 天候不順で取扱量は減少

一方、生産者にとっては栽培管理が難しいシーズンとなり、取扱量は3%減の4700トンと前年を下回った。昨年の台風24号では県西部を中心に塩害や停電が発生。苗の育成時期に重なったことから、2月ごろまでは小玉傾向が続き、出荷量も伸び悩んだ。その後は気温の上昇などに伴い生育が回復した。

イチゴは多品種化や高級化が進み、産地間競争が激化している。本県の紅ほっぺは糖度が高く、実がしっかりとっているため、業務用需要も高い。きらび香は果実の光沢が優れ、温かくなっても傷みにくいのが特徴。紅ほっぺに比べ知名度はまだ低い。固定ファンが増えている。

経済連の担当者は「さ

らに平均単価を高くできるよ、高品質で安定したイチゴを届けていきたい」とさらなるブランド化に意欲を示した。(経済部・牧野めぐみ)

2019年
5月21日朝刊

① 記事中の□の中に言葉を入れましょう。

② 「紅ほっぺ」と「きらび香」の特徴は何でしょうか。

(紅ほっぺ)

(きらび香)

③ 「県産イチゴの出荷量と平均単価の推移」のグラフを見てわかることは、何ですか。

④ 県外で作られているイチゴの品種を3つ書きましょう。

年 組 名前